

文部科学省 大学間連携共同教育推進事業
「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」
第 18 回 IT を活用した教育センター会議 議事録

【日 時】平成 26 年 4 月 23 日（水） 9 時 30 分 ～10 時 30 分

【場 所】以下の 5 拠点によるスカイプ会議：岩手医科大学：城教授室、北海道医療大学：越野教授室、昭和大学：1 号館 502 号室、金沢電子出版株式会社、株式会社ピコラボ

【出席者】城教授（岩手医科大学）、越野教授、豊下講師（北海道医療大学）弘中教授、美島教授、片岡教授、乾事務員（昭和大学）、佐藤様（金沢電子出版株式会社）、鈴木様（株式会社ピコラボ）

————— 議 事 内 容 (案) —————

1. 第 4 回 IT を活用した教育センターワークショップ（開催日：3/27（木））
 - 1) 第 4 回 IT を活用した教育センターワークショップアンケート集計結果について説明があった。（資料 1）
 - 2) 各 WG の D3,D4 授業準備進捗状況について報告があった。
 - (1) 連携大学 3 年生に対する IT 教材を活用した教育授業準備
 - ① WG 1：事前学習課題と当日配布資料の改善については、グループ内でまとめた具体案を参考に、3 月中に昭和大学の美島先生が資料の修正をする。美島先生が平成 26 年度の e-ラーニングを修正する。

授業の最初は学生に考えさせるために自由記載にするが、授業の効果と学生の到達度を明確にするために、まとめテストは採点ができる穴埋め形式で、各大学に問題の作成を依頼中である。症例数は三つを予定しており、使用する写真及びインタビュー風景は各大学で収集を行ない、次回 WS までに提示できるよう依頼している。
 - ② WG 2：作製した歯科診療中に患者の具合が悪くなるビデオ（4 種類）の確認と授業実施についての検討を行った。

北海道医療大学 草野先生の講義（4/10（木））及び昭和大学 飯島先生のビデオを使用した授業（4/16(水)）の報告を確認後、ブラッシュアップを行なう。
 - ③ WG 3：スライドの修正と講義の最後に行なうまとめテストを採点が難しい自由記述から採点ができる穴埋め形式あるいはプルダウンなど選択式に修正する。作業については、昭和大学 弘中先生、勝部先生が分担し修正等を行う。
 - ④ WG 4：改善点：WS で出た変更点はほぼ修正が完了した。関連する国試問題の追加は問題を確認中である。コンテンツについて以下の点を改善する。
 - ・ 2013_WG4-01_exer-03 復習 / 小テスト 2013_WG4_quiz-02 復習テストの解答方法が穴埋め方式に変更されていなかったため、変更をする。
 - ・ 2013_WG4-02_lect-01 解説 / 2013_WG4_page-05 高齢者に多い疾患の

有病者率について「有病者率」を「有病者数」に変更する。

- ・ コンテンツの最後に、授業内容に関連する国家試験問題を追加する。
- ・ 4月中に修正案の e-ラーニング化を金沢電子出版へ依頼（担当：越野先生）
- ・ 4月下旬までに該当する試験問題をピックアップし、追加コンテンツの e-ラーニング化を金沢電子出版へ依頼（担当：豊下先生）

(2) 連携大学4年生に対する IT 教材を活用した教育授業準備

① WG1: 昭和大学 鎌谷先生担当。問診形式の中で過不足なく勉強できるよう再構築を検討している。6月までに1つの症例を完成させる予定。

- ・ 問診・検査の流れについて
問診して検査を選択し、その結果から検査を再度選択できるようにする。
(担当：ソフト開発会社)
- ・ 検査データの表記について
正常値を提示するようにする。(担当：鎌谷先生)
- ・ 症例を単純なものにする。
薬の副作用など考える必要性を省くために、内服薬はなしとする。(担当：鎌谷先生)
- ・ 昭和大の担当者に改善点提出し、改善内容を委員がチェックするようにする。

② WG2: 各委員で VP の問答表ブラッシュアップを行ない、VP コンテンツの完成をめざす。

- ・ 3年生で全身疾患の学びの必要性を理解
↓
4年生で VP を用いて講義を行う〈講義の概要〉
 - i.) 全身疾患について概要 (e-ラーニング)
全身疾患：不整脈・狭心症・糖尿病・喘息・脳梗塞・高血圧など
 - ii.) 医療面接時における、各疾患に対する質問と回答を学ぶ (講義)
 - iii.) VP を用いて医療面接を学ぶ (VP システム)
問診票を紙ベースで製作し、学生はこの問診票に従って医療面接を行ってもらう
 - iv.) フィードバック (講義)
- ・ VP を用いた講義の準備
それぞれの疾患に関する想定問答集の充実と完成を進める
- ・ 主訴に関連した質問に対し回答がでないものをリストアップし、回答を製作する
- ・ 完成後、各大学で一度 VP のトライアルを実施する。

③ WG3: GW 頃を目安に VP 問答集と D4 の e-ラーニング教材を作成する予定。

- i.) 脳卒中発症、即日手術となり術後 ICU へ入院。
ICU より口腔ケアの依頼を受ける。
課題① ICU での口腔内診査・口腔ケアに必要な情報を収集する。
⇒e-ラーニングによる依頼票の関する学習（5月中）
口腔内所見の開示（診察票の書式）
- ii.) リハビリによる機能回復
ビデオまたは写真によるリハビリ過程の供覧
- iii.) 退院前の歯科受診
課題② 退院時の患者のニーズを把握し、診療情報提供書（依頼書）を作成する。
⇒VP を用いた学習（5月中）
主訴：クラスプが破損しており、食事がとりにくい
→地域の歯科診療所に対して、クラスプの修理および口腔内管理を目的とした診療情報提供書（依頼書）を作成する。
（診療情報提供書または依頼状の書式）⇒情報提供書の記載例（見本）を提示して終了
- iv.) リソース講義
詳細は今後検討（6月中）。

④ WG4 :

前回のワークショップで打ち出された 3 連携大学 4 年生に対する IT 教材の方向性に従って検討したところ、シナリオが大幅修正になったため、それに沿った想定問答集を再度構築し、次回 WS までに反映させる。

- i.) 最終的な診断、処置と合致するよう食事時の疼痛を主たる主訴に変更することとなった。
- ii.) 安静時の血圧を 125/80mmHg とすることとした。
- iii.) 歯周組織検査の数値を、X 線写真と矛盾なく抜歯適応となるよう修正した。
- iv.) 可能であればデンタル X 線写真を追加する
- v.) 上記の変更点を踏まえ、想定問答集に修正を加え、5 月上旬を目途に修正発注を行う（担当：豊下先生）

(3) 授業準備状況について

① オリエンテーション日程の確保について

- 昭和大学：D4
9/2（火）オリエンテーション（30分程度）、9/30（火）授業開始
1ヶ月前に自宅でVP事前学習課題を行なう予定である。
- 岩手医科大学：
D3：9/22（月）オリエンテーション

10/2（木）1限トライアル、2限目より授業開始

D4：9/12（金）オリエンテーション、9/25（木）トライアル

10/2（木）授業開始

- 北海道医療：D5を想定。講義日程は未確定。授業開始1ヶ月前にオリエンテーションを行なう予定である。

② 7月又は8月の夏休み期間中、トライアル学生を3連携大学の上級生より数名募集する。場所は各大学キャンパス3拠点でSkypeを利用して行なう。日程は後日、調整を行なう。内容はビデオで撮影し、別日程の学生が閲覧出来るように編集する。

③ 事前学習課題は授業とは別に口腔乾燥またはチーム医療のVPを使ったミニ課題を作成することが望ましい。

2. 第5回ITを活用した教育センターワークショップ（開催日：6/26（木））

1) 標準的な準備と運用ガイドの策定について

(1) 90分授業における事前学習課題、e-ラーニングあるいはVP、リソース講義、復習課題等それぞれの時間配分を明確にする。

(2) 事前に作成するものを明確にする。（事前用教材、授業用教材、復習用教材等）

2) VP授業の準備について、次回ワークショップに向けた工程表の説明があった。（資料2）

3. e-ラーニング教材セミナーの開催について

1) 第1回e-ラーニングセミナーアンケート集計結果について説明があった。（資料3）

2) 第2回e-ラーニングセミナーの内容について

(1) 第1回セミナーの内容を事前にe-ラーニングで復習・履修させる。

(2) 下記二部構成とする。

第1部：Active learning：受け身の講義から能動的・双方向型の授業へ

第2部：知識の定着をはかる

(3) 口腔乾燥症または、口腔内科コースより30分程度抜粋。

多肢選択問題、穴埋め問題は必須項目とする。

4. 歯科医学教育学会の演題登録

1) 抄録1～4について確認した。（資料4）

学会で3大学連携懇親会を開催する。

5. e-ラーニング教材における著作物引用に関してラーニング教材の著作権について

金沢電子出版の佐藤氏より検討すべきとの指摘があり、これを受けて本事業においても、今後以下の内容を検討していくことが了承された。

1) 授業中に印刷資料を配布するのであれば多くの場合、著作権法の第35条が適用されるため問題ないと考えられるが、3連携校と関連歯科医師会共同でオンライン教材を開発する場合は、著作権を十分に考慮して教材を作成すべきである。従って、今後作成するe-ラーニングコンテンツに対して、どのように対応していくかを検

討する必要がある。

著作権に抵触するおそれのある箇所への具体的な対応の例は以下のとおりである。

- ① イラスト等の問題となる箇所を削除して、可能な部分のみアップする
- ② イラスト等の問題となる箇所をオリジナルで再作成する
- ③ 利用許諾を得た上でアップする
- ④ 印刷物での配布を併用する
- ⑤ 一定のガイドラインを制定して、その範囲でこのままアップする
- ⑥ その他

上記に付帯する作業（確認、修正、許諾申請など）は、業者に委託することも可能である。

- 2) 9月スタートのD3授業コースに関しては、著作権を考慮した上で作成する。

次回以降の予定

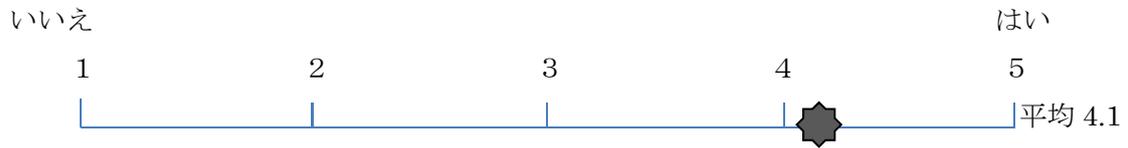
第19回 ITを活用した教育センター会議 5月26日（月）10:00～11:00

第20回 ITを活用した教育センター会議 6月16日（月）10:00～11:30

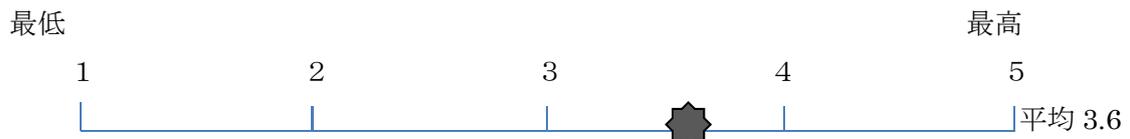
以上

第4回 ITを活用した教育センターワークショップの評価

① 本日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか？



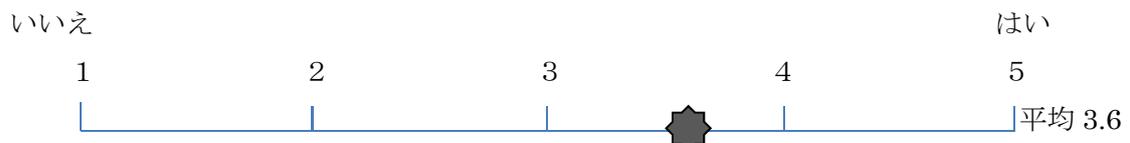
② 本日各セッションの討議にはどの程度参加されましたか？



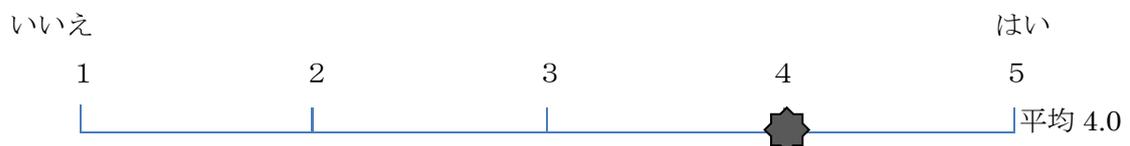
③ 3年生のIT教材の改善案は満足がいくものでしたか？



④ 4年生のIT教材は満足がいくものができそうですか？



⑤ ITを活用した歯学教育への関心は高まりましたか？



⑥ その他ご意見・ご感想(何でもご自由に)

***大学教職員のみお答えください。**

⑦ ITを活用した授業の準備と運用は参考になりましたか？



第4回ITを活用した教育センターWSの評価
 実施日：平成26年3月27日

回答：35人

質問内容	1	2	3	4	5	平均
1.本日のワークショップの流れにスムーズに入り込めましたか？	いいえ 0 (0%)	0 (0%)	6 (17%)	18 (51%)	はい 11 (31%)	4.1
2.本日各セッションの討議にはどの程度参加されましたか？	いいえ 0 (0%)	3 (9%)	13 (37%)	15 (43%)	はい 4 (11%)	3.6
3.3年生のIT教材の改善案は満足がいくものでしたか？	いいえ 0 (0%)	0 (0%)	15 (44%)	15 (44%)	はい 4 (12%)	3.7
4.4年生のIT教材の改善案は満足がいくものでしたか？	いいえ 0 (0%)	1 (3%)	15 (44%)	15 (44%)	はい 3 (9%)	3.6
5.ITを活用した歯学教育への関心は高まりましたか？	いいえ 0 (0%)	1 (3%)	6 (17%)	20 (57%)	はい 8 (23%)	4.0
7.ITを活用した授業の準備と運用は参考になりましたか？ (大学教員のみ回答:25人)	いいえ 0 (0%)	0 (0%)	4 (16%)	16 (64%)	はい 5 (20%)	4.0

【自由記載】

6, その他ご意見・ご感想

- 1 e-ラーニングの仕組みがよく分かりました。
- 2 VPを作動させてみましたが、問答集の充実がさらに必要と思いました。
- 3 ITを活用した場合と、しない場合で同じ授業内容を行なわせて学生の評価に違いがあるか調べてみたいと思いました。
- 4 2回目の参加です。前回より積極的に参加できました。
- 5 教材作成の苦勞を感じました。超高齢社会への対応した歯科医師がこの3大学で養成されることを祈っている臨床の本領は「実際には云々」との意見でありましたが、本日は却って時間を長引かせてしまったかと存じます。しかしながら前回より面白い1日でした。
- 7 自身の学生への教育面でも参考になりました。
- 8 学生教育は難しい。
- 9 お疲れさまでした。

8, 授業の準備、運用で分からない部分、改善すべき部分をあげてください。

- 1 インターネットの環境によってソフトが動かないので改善をお願いします。
- 2 e-ラーニング、VP等の細かいところ
- 3 e-ラーニングを自分自身でもっとやってみたい。

授業でのVPシステム利用に向けて ～6月WSまでの工程表～

2014-04-23

株式会社ピコラボ

6月WSまでに準備すること

I. 教材の準備

1. 症例の完成度を高める

- ① 対話制度の向上
- ② 症例写真などの確認
- ③ 選択肢部分の正誤判定やフィードバックの検討

2. 履修時の配布資料の作成

II. 授業実施前の準備

1. 多人数による同時接続試験

2. オリエンテーションの実施日程の確保

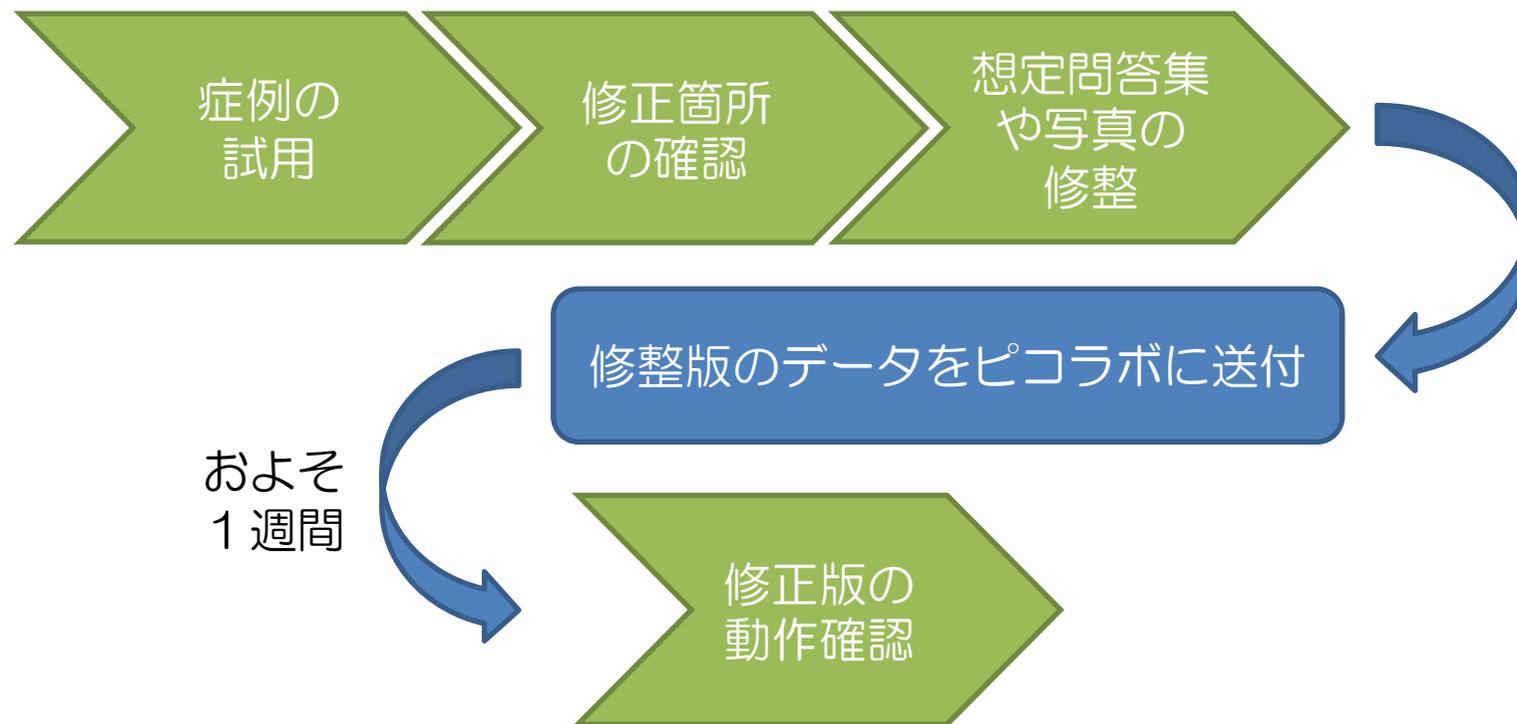
3. 授業実施前の練習期間の設定

6月WSまでに準備すること



I-1 症例の完成度の向上

- 6月WSまでに以下の手順を2フェーズ繰り返すのが理想です

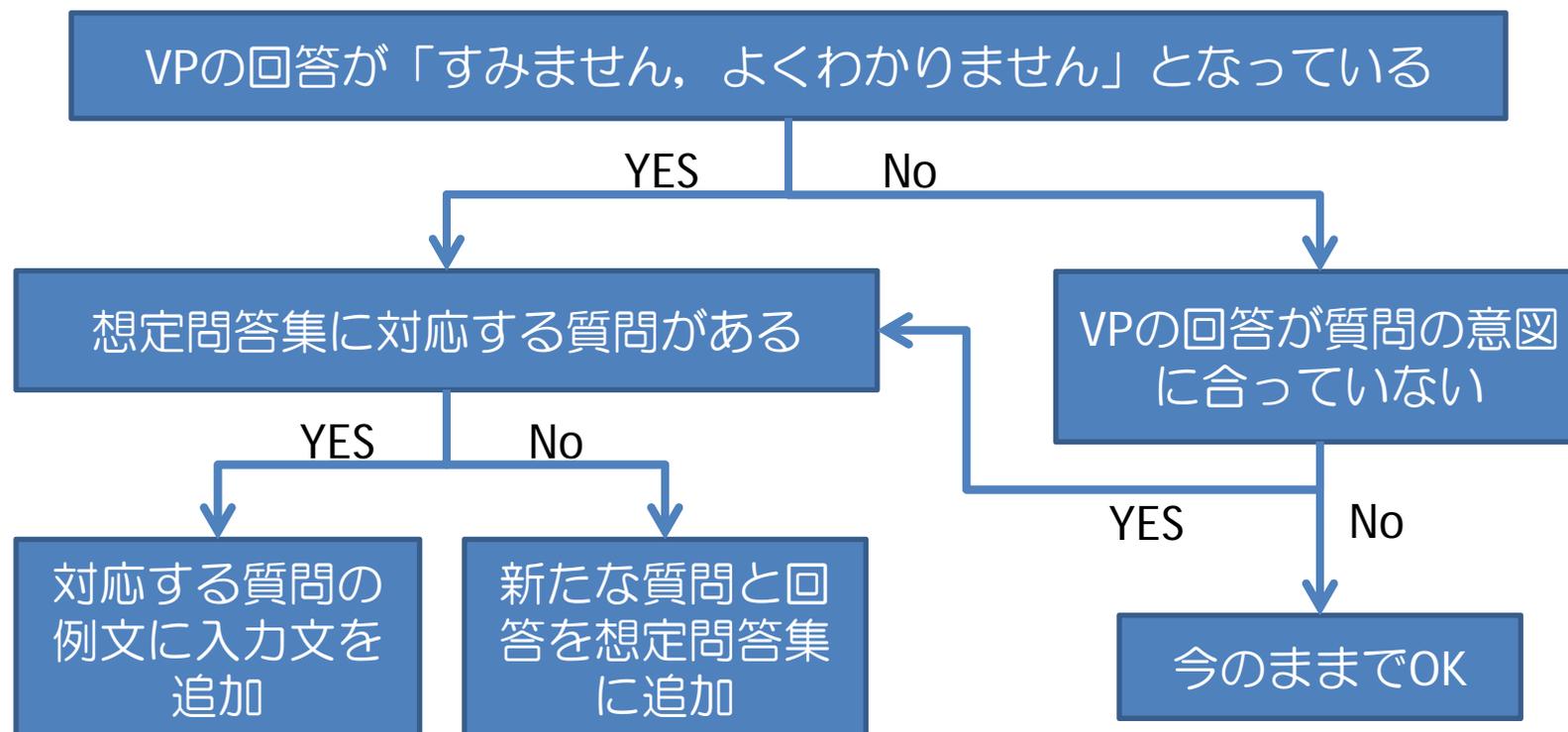


I-1-① 対話精度の向上

- 以下の作業を繰り返し実施してください
 - 先生や学生さんにVPシステムの試用を依頼
 - 受け答えできなかった質問を想定問答に追加
- ご連絡いただければ対話履歴データをお送りします
 - 3月WS当日分は各WGの先生に送付済み

I-1-① 対話精度の向上

- 対話履歴のチェックポイント
 - 対話履歴の対話ごとに，以下を確認します



I-1-② 症例写真などの確認

- VPで使用する画像素材を確認してください
 - 医療面接中に表示する口腔内写真
 - 追加検査のフィードバックで表示するレントゲン写真など
- 以下の点に注意してください
 - 対話の内容との整合性が取れているか
 - 主訴と関連のない疾患などが映り込んでいないか

I-1-③ 正誤やフィードバックの修整

- 正誤判定とフィードバックを確認
 - 追加検査の選択
 - 正解および不正解が明確か
 - どちらともいえないような選択肢がないか
 - 正解のフィードバックの内容が適切か
 - 診断・治療の選択に必要な情報が読み取れるか
 - よく間違える不正解に教示となるようなフィードバックがあるか
 - 診断・治療の選択
 - 診断の正解および不正解が明確か
 - 診断に対する治療法が明確か
 - どちらともいえないような選択肢がないか
 - 正解に対するフィードバックが適切か
 - よく間違える不正解に教示となるようなフィードバックがあるか
 - 選択可能な数の上限設定が適切かどうか

1-2 履修時の配布資料の作成

- 昭和大学ではVP履修時に問診票を配布
- 症例のポイントの整理や，聞くべき質問の誘導などに非常に有効
- 症例と直接的には関係ない個所を記入した問診票を配布すれば時間を節約できる

1-2 履修時の配布資料の作成 / 例

<div style="text-align: center; border-bottom: 1px solid black; margin-bottom: 10px;">問診票</div> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">★空欄を埋めて問診票を完成させてください。</div> <p>出席番号: () 2014年 3月 13日</p> <p>担当医: 昭和太郎</p> <p>患者氏名 ()</p> <p>生年月日 年 月 日 年齢 歳 性別 男・女</p> <p>職業 ()</p> <p>紹介医 なし・あり ()</p> <p>主訴:</p> <p>現病歴:</p> <p>その他気になるところ:</p> <p>歯科的既往歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歯科治療経験: なし・あり <li style="padding-left: 20px;">治療内容: <ul style="list-style-type: none"> ・ 抜歯: なし・あり <li style="padding-left: 20px;">抜歯の異常 血が止まりにくい・その他 () <ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔経験: なし・あり <li style="padding-left: 20px;">麻酔の異常 ショック・その他 () <div style="text-align: right; font-size: small; margin-top: 10px;">Prosthodontics Showa University.</div>	<div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">★○の記載されていないところを聴取して記載して下さい。</div> <p>その他歯科治療に関連する一般的既往歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貧血 (なし) あり () ・ 血圧 最高 mmHg 最低 mmHg 高・正常・低 ・ 妊娠 (なし) あり 月 ・ アレルギー なし・あり 薬剤: 食物: ・ 習癖 なし・あり 歯ぎしり・くいしばり その他 () ・ 飲酒 (なし) あり (1日量) ・ 喫煙 (なし) あり (1日 本× 年) ・ コーヒー (なし) あり (1日 杯) ・ 常用薬 (なし) あり: () <p>医科的既往歴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入院経験 なし・あり () ・ 手術経験 なし・あり () ・ 心臓疾患 なし・あり () ・ 糖尿病 なし・あり () ・ 脳梗塞 (なし) あり () ・ 肝臓疾患 (なし) あり () ・ 腎臓疾患 (なし) あり () ・ 喘息 (なし) あり () ・ HIV (なし) あり () <p>家族歴:</p> <p style="text-align: center; margin: 10px 0;">特記事項なし</p> <p>治療に対する希望:</p> <div style="background-color: #e0e0e0; padding: 2px; text-align: center; margin-top: 10px;">ここまで終了したら、画面上部の「口腔内の診察・検査」「口腔外の診察・検査」を開始してください。</div> <div style="text-align: right; font-size: small; margin-top: 10px;">Prosthodontics Showa University.</div>
---	---

II-1 多人数による同時接続試験

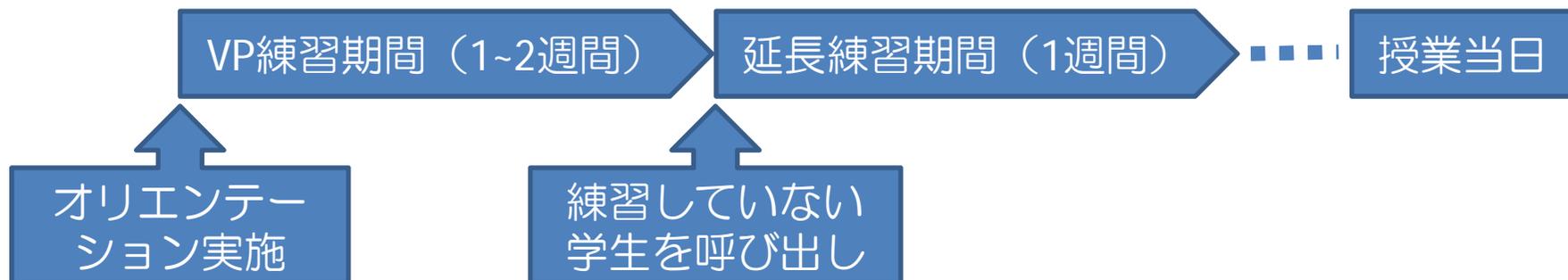
- 今までの多人数での実施の最大数
 - 平成25年10月実施の医療面接の授業
 - 同時利用者数 約50名
 - 無線LANで接続
 - 学生のPCを利用
- VPの症例開始時に大きめのファイルのダウンロードが発生
 - 昭和大学内でもネットワーク混雑時だと1分程度かかることがありました
 - 症例開始のタイミングをずらした方がよいです
- 症例開始後のデータ量はあまり多くないです

II-2 オリエンテーションの日程調整

- 事前に学生さんに操作方法や準備などを説明しておく必要があります
 - ブラウザやOSなどのバージョンの確認
 - Unity Player（ブラウザ用のプラグイン）のインストール
 - ポップアップブロックの設定の確認
 - アカウントの登録とアクセス方法の確認
 - 操作方法や画面の流れの説明
 - 練習用症例の使用の指示

II-3 授業前の練習期間の確保

- 練習用症例を学生に公開し，授業前に自宅で予習させることをお勧めします
 - VPシステムはどこからでもいつでも利用可能です
 - システムに利用履歴が残りますので，予習していない学生を調べることも出来ます
 - オリエンテーション実施日を開始日として1～2週間の期間を設定するとよいです
- 昭和大学でのモデルケース



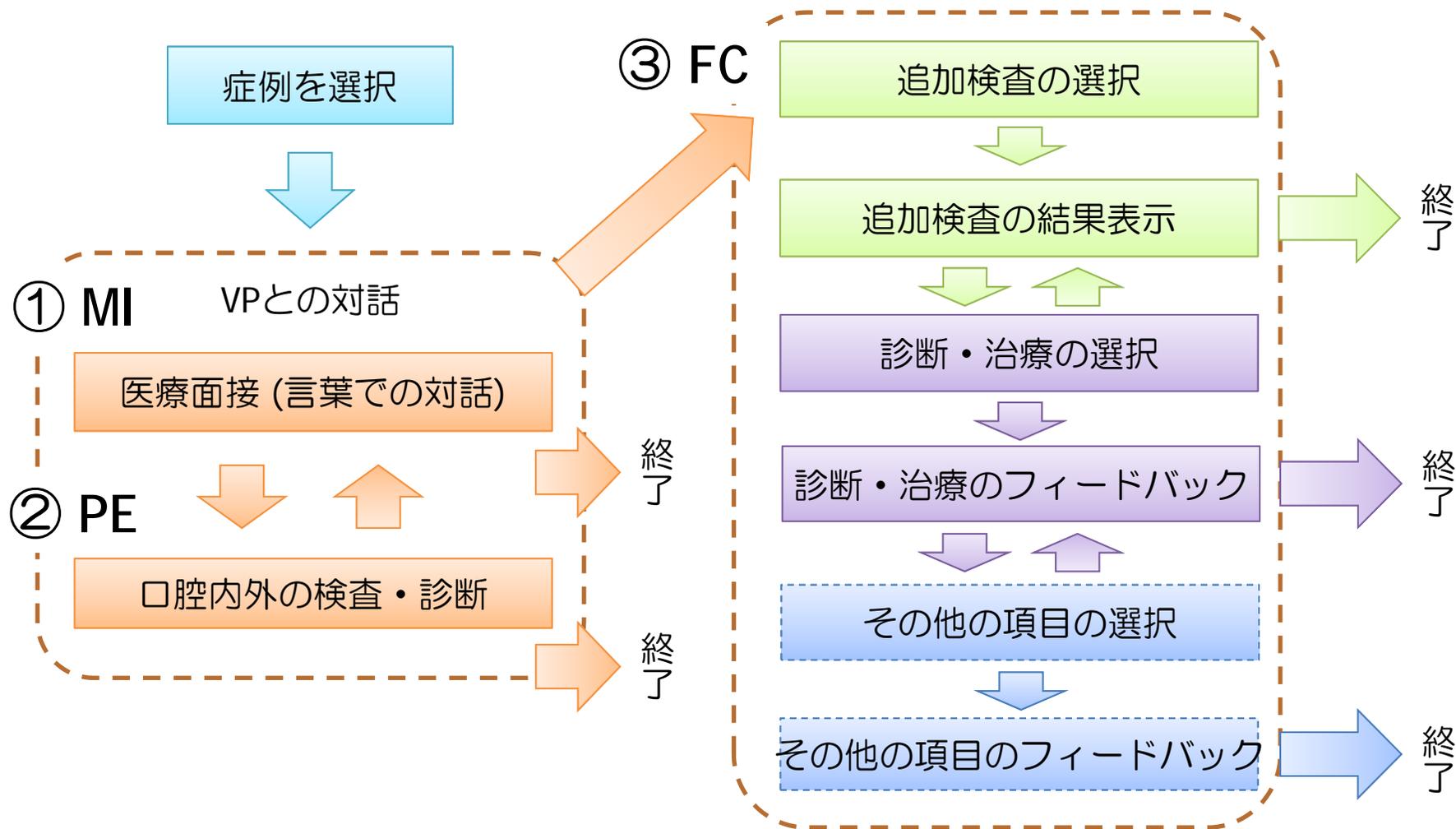
参考：連携事業用 VP症例

- <https://vpwa.showa-u.ac.jp/> にアクセス
- アカウントは下記の通り
 - 昭和大学の方
wa_sample001 ~ wa_sample005
 - 岩手医科大学の方
iw_sample001 ~ iw_sample005
 - 北海道医療大学の方
hm_sample001 ~ hm_sample005
- パスワードはアカウント名と同じ
- ログインすると各WGの症例が一覧表示

参考：連携事業のVP症例一覧

課題	患者名(仮)	年齢	キャラクタ	主訴	全身疾患等
連携事業 [WG1] 【シェーグレン症候群】	連携 WG1	60	年配女性	口が渴くのです。	甲状腺疾患
連携事業 [WG2] 【糖尿病】	連携 WG2 (糖 尿病)	未定	年配男性	左下奥の歯がぐらぐらして痛いです。	糖尿病
連携事業 [WG2] 【不整脈】	連携 WG2 (不 整脈)	67	年配男性	左下の奥歯が噛むと痛いので治療して欲しいです。	不整脈(心房細動)
連携事業 [WG3] 【退院前歯科室】	連携 WG3	未定	未定	入れ歯の調子が悪いのです。	脳梗塞
連携事業 [WG4]	連携 WG4	70	年配男性	入れ歯が合わないんです。	脳梗塞、高血圧

参考: VPシステムの履修画面の流れ



参考: VPシステムの履修画面の流れ

- ① MI (Medical Interview: 医療面接)
 - 言葉による患者との対話を行う部分
- ② PE (Physical Exam: 口腔内外の検査・診断)
 - チェアサイドで行う検査・診断を行う部分
- ③ FC (Final Choices: 選択肢問題)
 - 選択肢から解答を選択する形式の問題
 - 追加検索の選択
 - 診断と治療の選択
 - その他の選択

e-ラーニング教材作成セミナー アンケート

実施日:平成26年3月26日

回答:29人

質問内容	1	2	3	4	5	平均
1.本日のセミナーはニーズに合っていましたか?	いいえ 0 (0%)				はい 12 (41%)	4.0
2.以下の内容には興味が持てましたか?						
1) 昭和大におけるe-ラーニング教材の紹介	いいえ 0 (0%)	0 (0%)	9 (31%)	11 (38%)	はい 9 (31%)	4.0
2) e-ラーニングの導入と利用の手引き	いいえ 0 (0%)	0 (0%)	10 (34%)	11 (38%)	はい 8 (28%)	3.9
3) moodle体験実習の手引き	いいえ 0 (0%)	0 (0%)	7 (24%)	13 (45%)	はい 9 (31%)	4.1

H26 歯科医学教育学会（抄録・案）

大学間連携「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」

1. 取組の概要

Training of capable dentists for ultra-aged society with ICT: Collaborative Education Part

1.Outline of the project

片岡 竜太, 美島 健二, 弘中 祥司, 佐藤 裕二, 飯島 毅彦, 菅沼 岳史, 須田 玲子, 北川 昇, 丸岡 靖史, 勝部 直人, 馬谷原光織, 井上美津子, 馬場一美, マイヤース 三恵, 鎌谷 宇明, 宮崎 隆 1), 城 茂治, 近藤 尚知, 小林 琢也, 熊谷 章子, 藤村 朗, 須和 部 京介, 藤村 朗, 野田 守, 三浦 廣行 2), 越野 寿, 入江 一元, 豊下 祥史, 草野 薫, 吉田 光希, 安彦 善裕, 長澤 敏行, 斎藤 隆史 3), 乾 さやか 4)

1) 昭和大学歯学部, 2) 岩手医科大学歯学部, 3) 北海道医療大学歯学部, 4) ITを活用した教育センター事務局

超高齢社会の到来に備えて全身と関連づけて口腔を診ることができ、基礎疾患を有する患者の歯科治療を安全に行える歯科医師を養成するために、連携体制をとってきた北海道、北東北、関東の 3 大学と地域医療教育を担当する関連歯科医師会が協働して行う「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択された。5 年計画で 3 年生から 5 年生を主な対象として e-ラーニングや VP（仮想患者）を中心とした IT 教材を 3 連携大学と関連歯科医師会で連携して作成し、それぞれの大学の授業で実施している。また学生が関連歯科医師会の協力の下、歯科医院で実習を行う歯科医院体験実習必修化にも取り組んでいる。

本取組では第 1 段階として、各大学の 3 年生を対象に「全身と口腔の関連についての基礎知識の修得」を目指して、e-ラーニングを活用して、「口腔乾燥症」「急性期と回復期のチーム医療」「基礎疾患を有する患者の歯科治療」をテーマとした授業を実施している。

第 2 段階は、各大学の 4 年生を対象に「コミュニケーション・臨床推論能力の養成」を目指して、e-ラーニングに加えて、VP（仮想患者）システムを活用した授業の準備をしている。第 3 段階は、第 1、2 段階で修得した知識や能力を活用して、「臨床における実践」を 5 年次に実施する予定である。

取組 2 年目の時点での取組の紹介とアンケート結果などによる現時点における全般的な評価を報告する。

H26 歯科医学教育学会（抄録・案）

大学間連携共同教育推進事業 「IT を活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」

2. 口腔乾燥症(に関する)教育

Training of capable dentists for ultra-aged society with ICT: Inter-University Collaborative Education by MEXT

Part 2. Education of xerostomia

熊谷 章子, 小林 琢也, 城 茂治 1), 安彦 善裕, 長澤 敏行, 吉田 光希, 越野 寿 2), 美島 健二, 佐藤 裕二, 鎌谷 宇明, 片岡 嗣雄, 弘中 祥司, 片岡 竜太 3)

1) 岩手医科大学 歯学部, 2) 北海道医療大学 歯学部, 3) 昭和大学 歯学部

平成 24 年度から始まった、文科省大学間連携共同教育推進事業「IT を活用した超高齢社会で活躍できる歯科医師の養成」では、北海道、北東北、関東の 3 大学と地域医療教育を担当する関連歯科医師会が協働して行っている。基礎疾患を有する患者の口腔を診ることができ、歯科治療を安全に行える歯科医師を養成することを目的とし、5 年計画で 3 年生から 5 年生を主な対象として、e-ラーニングや VP（仮想患者）を中心とした IT 教材を 3 連携大学と関連歯科医師会で作成している。平成 25 年度は、各大学の 3 年生を対象に e-ラーニングを活用して、テーマの 1 つである「口腔乾燥症」に関する授業を実施した。今回われわれは、その授業内容、授業終了後に行った学生対象のアンケート結果、次年度に向けて検討した改良点について報告する。

アンケート内容は、授業内容の理解、興味や関心、自分のレベルとの合致、e-ラーニングの設問の解答操作、解答時間、PC 操作、e-ラーニング操作、リソース講義との組み合わせについてを問い、その他、自由記載による意見も集計した。その結果、リソース講義による視覚的情報と、PC を利用した設問解答操作を並行して行うことで、今までに学習した基礎医学と全身疾患と口腔内の臨床的病態について関連づけることができた、という意見を持った学生がいた反面、正答でも文字入力の違いで不正解となり、その煩雑さを訴えた学生も多く存在した。e-ラーニングならではの不都合が浮き彫りになったため、有益な特性を生かすための解答方法を可能にするための見直しが必要であり、講師側も PC 操作についてのトレーニングを要すると思われる。

平成 26 年度では、各大学の 4 年生を対象に「コミュニケーション・臨床推論能力の養成」を目指して、e-ラーニングに加えて、VP システムを活用した授業の準備をしている。その現時点での準備状況も合わせて報告する。

H26 歯科医学教育学会（抄録・案）

大学間連携共同教育推進事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」

3. チーム医療教育（急性期）

Training of capable dentists for ultra-aged society with ICT: Inter-University Collaborative Education by MEXT

Part 3. Education of team medical care (acute phase)

弘中 祥司, 勝部 直人, 石川 健太郎, 内海 明美, 片岡 竜太, 美島 健二, 1), 藤村 朗, 城 茂治 2), 豊下 祥史, 入江 一元, 越野 寿 3)

1) 昭和大学 歯学部, 2) 岩手医科大学 歯学部, 3) 北海道医療大学 歯学部

「ITを活用した超高齢社会で活躍できる歯科医師の養成」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択され3年目を迎えた。その間、北海道、北東北、関東の3大学と地域歯科医師会の先生方と連携し、4回のワークショップを開催している。本事業は4つのワークグループに分かれ、3年生から5年生を主な対象とした講義用のコンテンツの構築を行っている。

平成25年度は、2大学において学部3年生を対象にeラーニングによる教育を実施した。これは、「全身と口腔の関連についての基礎知識の修得」を目指している。昭和大学においては、「全身がわかる歯科医師がなぜ必要か?」、「脳梗塞を発症した患者から、医療の仕組みを学ぶ」、「口腔乾燥症と疾患」、「口腔診察・検査実習と疾患」の各コンテンツで10回の授業を行った。今回、授業実施後にアンケート調査を実施したのでその結果について報告する。また、学部4年生を対象に「コミュニケーション・臨床推論能力の養成」を目指して、eラーニングに加えて、VP（仮想患者）システムを活用した授業の準備を行っている。ここでは、発症から急性期に移行した患者を想定したシナリオを考え、eラーニングやVPを使用して、より効率的な授業を目指している。ステークホルダーである地域歯科医師の先生方から、退院時に遭遇する可能性が高い患者の状態を考慮したシナリオの作成を模索している。これらの進捗状況についても報告する。

H26 歯科医学教育学会（抄録・案）

大学間連携共同教育推進事業「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」

4. チーム医療教育（回復期）

Training of capable dentists for ultra-aged society with ICT: Inter-University Collaborative Education by MEXT

Part 4. Education of team medical care (convalescent)

北川 昇, 丸岡 靖史, マイヤース 三恵, 弘中 祥司, 美島 健二, 片岡 竜太 1), 豊下 祥史, 越野 寿 2), 須和部 京介, 城 茂治 3)

1) 昭和大学 歯学部, 2) 北海道医療大学 歯学部, 3) 岩手医科大学 歯学部

「ITを活用した超高齢社会で活躍できる歯科医師の養成」が文科省大学間連携共同教育推進事業に採択され3年目を迎えた。その間、北海道、北東北、関東の3大学と地域歯科医師会の先生方と連携し、4回のワークショップを開催した。本事業は4つのワークグループに分かれ、3年生から5年生を主な対象とした講義用のコンテンツの構築を行っている。

平成25年度は、2大学において学部3年生を対象にe-ラーニングによる教育を実施した。これは、「全身と口腔の関連についての基礎知識の修得」を目指している。昭和大学においては、「全身がわかる歯科医師がなぜ必要か?」、「脳梗塞を発症した患者から、医療の仕組みを学ぶ」、「口腔乾燥症と疾患」、「口腔診察・検査実習と疾患」の各コンテンツで10回の授業を行った。今回、授業実施後にアンケート調査を実施したのでその結果について報告する。また、学部4年生を対象に「コミュニケーション・臨床推論能力の養成」を目指して、e-ラーニングに加えて、VP（仮想患者）システムを活用した授業の準備を行っている。ここでは、急性期から慢性期に移行した患者を想定したシナリオを考え、VPを使用してSPの負担や経費を抑え、より効率的な授業を目指している。ステークホルダーである地域歯科医師の先生方から、より日常で遭遇する可能性が高い患者の状態を考慮したシナリオの作成を模索している。これらの進捗状況についても報告する。